

巻 頭 言

平成15年11月に4回にわたって国際社会科学研究科公開セミナーと経営学部リカレント教育の合同セミナーが開催されました。10数年にわたり隔年毎に開催されている経営学部リカレント教育セミナーは各回とも横浜在住の社会人に定評があり、講師陣と受講者の活発な討論から、経営問題に対する先端的なリカレント教育の実績があがっております。

平成15年の当該セミナーは平成16年4月に開設される横浜国立大学ビジネス・スクール(BS：正式名称は国際社会科学研究科経営及びファイナンス・アカウンティング専修コース)の教育内容を先取りし、一般の社会人受講生の皆さんにBSの疑似体験をして頂こうという意図から、「新しいMBAマネジメント教育—ビジネス・アーキテクチャーの考え方—」をテーマに開催されました。現代の企業経営には経営管理・会計・財務・マーケティング・情報システム等の多様な専門的な経営知識の深化が求められる一方で、これらの専門知識を統合し、企業経営活動の全体最適を志向する経営戦略にまとめ上げる人材育成が必要とされています。加えて、現代の経営財務で大きな問題となる企業年金についてもその運用、制度に通暁する人材育成が急務となっています。ビジネス・アーキテクチャーの考え方として、「マネジメント専修コース」については戦略的視野に立って企業活動の全体的統合化に必要な知識を持つ人材養成を、「ファイナンス・アカウンティング専修コース」については企業年金問題に関する専門知識を持つ人材養成を目指すプログラムを検討しています。

本号は、上記の要請に応えるために開催されたセミナーの講義から、現代企業経営が抱える問題を扱う論文として7本を掲載しています。

「戦略マネジメント論の挑戦—21世紀企業の経営戦略—」(山倉論文)は企業における統合的な経営戦略の役割を示し、「企業変革のための業績評価システム—各社での取り組み—」(貫井論文)は現代企業の業績評価事例を取り上げ、「企業評価の新しい潮流と環境経営」(長谷川論文)は環境問題が企業経営とその評価に及ぼす影響を論じており、いずれの論文もマネジメント全般に関するものです。またマネジメントのインフラとしての情報システムについて、「ビジネス・モデルとシミュレーション」(白井論文)は情報システム環境におけるビジネス・モデルやシミュレーションの役割と影響、「ユビキタス情報環境の展開—ユビキタスな情報技術と事業展開に関する考察—」(守屋論文)は将来の情報システムの発達・展開とビジネスの関係を論じ、いずれも専門的で今日的な情報技術の適用を考察の対象としています。

一方、「わが国機関投資家における意思決定プロセスの変化に関する一考察—1990年代の回顧—」(北川論文)は機関投資家の財務意思決定問題を扱い、「企業年金の制度設計戦略」(山口論文)は差し迫る企業年金に対し具体的な制度設計戦略を検討する論文で、いずれも企業財務や企業年金を対象を絞ったテーマです。

このように本号はBSの講義内容を念頭に置きつつ、研究者と第一線の実務家が現代企業経営に対する独自の視点から、経営戦略、業績評価、企業評価、財務意思決定、企業年金、ビジネスモデル、ユビキタス環境等の各テーマについて理論と実践のコラボレーションを試みとして、これまでとは異なる編集方針が採用されたことが大きな特徴と考えられます。

横浜国立大学経営学会長
溝 口 周 二